

PANEL FITTING DEVICE

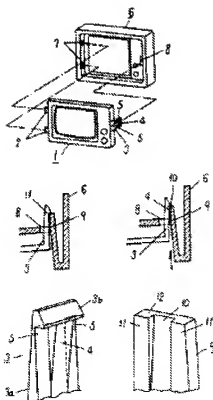
Patent number: JP58121880
Publication date: 1983-07-20
Inventor: HASHIMOTO KIMIO; NAITOU YASUO
Applicant: MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD
Classification:
 - international: **H04N5/64; H04N5/64;** (IPC1-7): H04N5/65; H05K5/00
 - european: H04N5/64
Application number: JP19820004582 19820113
Priority number(s): JP19820004582 19820113

[Report a data error here](#)

Abstract of JP58121880

PURPOSE:To attain ease of removal to a cabinet, by fitting a panel surely with a latch piece provided incorporated with the panel without using a cushion member.

CONSTITUTION:A projection 2 of the panel 1 is inserted to a hole 7 of the cabinet 6 and the latch piece 3 is fitted to a hole 8. A step 4 of the piece 3 is inserted to a recess groove 10, the surface 5 of both sides of the step 4 is elastically contacted with the surface 11 of a latch projection 9, a nail 3b is latched to an upper surface 12 of the projection 9, and fitting is finished. In this fitting state, there is a clearance of several mm. between the panel 1 and the cabinet 6. In case of removal, a rigid thin piece is inserted from the said clearance to release the coupling wit a nail 3b and the latch projection 9.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—121880

⑬ Int. Cl.³
H 04 N 5/65
H 05 K 5/00

識別記号

庁内整理番号
7013—5C
6332—5F

⑭ 公開 昭和58年(1983)7月20日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮ パネル取付装置

⑯ 特 願 昭57—4582

⑰ 出 願 昭57(1982)1月13日

⑱ 発 明 者 橋本公雄

門真市大字門真1006番地松下電
器産業株式会社内

⑲ 発 明 者 内藤靖夫

門真市大字門真1006番地松下電
器産業株式会社内

⑳ 出 願 人 松下電器産業株式会社

門真市大字門真1006番地

㉑ 代 理 人 弁理士 中尾敏男 外 1 名

1 ページ

2

明 細 書

1、発明の名称

パネル取付装置

2、特許請求の範囲

パネル本体の一方の端部に突起を設け、他方の端部に本体部およびこの本体部の先端に連続して設けられた爪部とよりなり弾性を有する係止片を設け、かつこの係止片の一面に一端が爪部と接合しかつこの接合部分の高さが爪部の高さと略等しくこの接合部分より離れるにしたがい高さが低くなるようにテーパ加工が施された段部を設け、キャビネット本体に前記突起、係止片がおおのの嵌合する第1、第2の孔と、この第2の孔に嵌合した前記係止片の爪部と係合する部分および前記段部が嵌合する段部と同一形状の凹溝を設けた係合突部を形成したパネル取付装置。

3、発明の詳細な説明

本発明はテレビジョン受像機、陰極線管ディスプレイモニタなどにおけるパネルのキャビネットに対する取付装置に関するもので、パネルの着脱

が容易に行えるようにしたものである。

従来、キャビネットに対してパネルを着脱可能に取付けるようにした装置は、パネルとキャビネットが嵌合する面にゴム、フェルト、スポンジ等のクッション材を介在せしめ、このクッション材による摩擦嵌合でパネルを保持するようにしていた。このため、経時変化による嵌合のがたつきが発生し、またクッション材をパネルあるいはキャビネットに貼付するための工数がかかり、コストアップを招く一要因となる等の欠点があった。

本発明はクッション材を用いることなく、パネルに一体に設けた係止片によりパネルの取付けが確実に行えるとともに、キャビネットに対する着脱が容易に行えるようにしたものである。以下その一実施例を添付図面を用いて説明する。

図において、1はパネル本体で、一端端部に複数の突起2を一体に設けている。3はこのパネル本体1の他端端部に一体に設けた係止片で、本体部3aとこの本体部3aの先端に連続して設けられた爪部3bとよりなり、弾性を有し、わずかに

外側に向かって傾斜させられている。この係止片 3 はまた、その突出方向に於て本体部 3 a の中央に表面がテーバーを有する段部 4 を一体に設けている。この段部 4 は一端が爪部 3 b と接合し、この接合部分での高さは爪部 3 b の高さと同じく形成せられ、この部分より本体部 3 a の根元に向かって高さが徐々に低くなるようにテーバーを有するものである。8 は上記パネル本体 1 を着脱可能に取付けるキャビネット本体で、一方端部に前記突起 2 が嵌合する複数の孔 7 を有し、また他方端部に前記係止片 3 が嵌合する孔 8 を有するとともに、この孔 8 に連続して内部に係合突起 9 を一体に設けている。この係合突起 9 はその突起方向に於て中央部に前記段部 4 が嵌合する段部 4 と同一形状の凹溝 10 を設けている。すなわち、係合突起 9 の先端での深さが最も深く、係合突起 9 の根元部に向うにしたがい徐々に浅くなるようにテーバー加工が施された凹溝 10 としている。

上記構成においてパネル本体 1 のキャビネット本体 8 への取付けは、まずパネル本体 1 の突起 2

をキャビネット本体 8 の孔 7 に嵌合させ、この状態で係止片 3 を他方の孔 8 に挿入嵌合させる。これにより第 2 図、第 3 図に示すように係止片 3 の段部 4 が凹溝 10 に嵌合し、かつ段部 4 の両側の面 5 が係合突起 9 の面 11 に弾性的に当接するとともに爪部 3 b が係合突起 9 の上面 12 に係合し、パネル本体 1 のキャビネット本体 8 への取付けが完了する。この取付状態において第 2 図、第 3 図に示すようにパネル本体 1 とキャビネット本体 8 との間には数 mm の隙間が残るようにしている。したがってパネル本体 1 をキャビネット本体 8 より取外す場合は、キャビネット本体 8 とパネル本体 1 との間より、第 3 図で矢印にて示すように係止片 3 と係合突起 9 との間に剛性の薄板片（図示せず）を挿入して、爪部 3 b の係合突起 9 との係合を解除する。このとき、薄板片の厚みが段部 4 の最も高い部分の高さより厚ければ、薄板片をわずかに挿入するのみで爪部 3 b の係合を解除することができ、操作がより容易となる。そして係合を解除した後はパネル本体 1 を表面側へ引出せ

5 ページ

ばよい。

このように本発明によれば、係止片の爪部にてパネル本体のキャビネット本体への取付けが確実に行なえ、またパネル本体の取外しも係止片と係合突起との間に薄板片を挿入するだけで可能となり、その操作も容易となる。また、係止片、係合突起はおのおののパネル本体、キャビネット本体に一体に形成できるため工数が増加することもなく、その価値は極めて大なるものである。

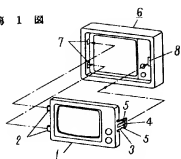
4、図面の簡単な説明

第 1 図は本発明の一実施例におけるパネル取付装置の分解斜視図、第 2 図、第 3 図はおのおのパネル本体を取付けた状態の異なる部分での断面図、第 4 図は係止片の斜視図、第 5 図は係合突起の斜視図、第 6 図は同装置の要部の分解斜視図である。

1 ……パネル本体、2 ……突起、3 ……係止片、4 ……段部、5 ……面、6 ……キャビネット本体、7, 8 ……孔、9 ……係合突起、10 ……凹溝、11, 12 ……面。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか 1 名

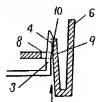
第 1 圖



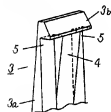
第 2 圖



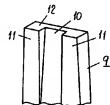
第 3 圖



第 4 圖



第 5 圖



第 6 圖

